



石口 智志
水曜会
(70分)



放課後子ども教室は

問 ①活動の概要は。

②ボランティア確保に向けた取り組みは。

答 ①子どもたちが、放課後に安心・安全に活動できる拠点として開設している。地域のボランティアである協働活動サポーターが企画、運営に当たり、読書や工作、スポーツ、体験学習など地域住民との交流活動を実施している。昨年度は23学区で開設し、今年度は29学区で実施する予定である。



放課後子ども教室

②交流館だよりやまちづくり推進委員会などを通じ、学区内住民に対して募集してきた。今後は、これらに加えて各種団体等へ声かけするほか、各学区の活動内容などを市ホームページや広報紙を通じて広く周知し、確保につなげる。



喜田 紘平
水曜会
(70分)



少子化対策プロジェクトは

問 少子化に対する取り組みの具体は。

答 5月31日に少子化対策の市内プロジェクトをスタートさせた。2011年と2021年を比較すると、出生数は約1300人減少している。今後は市内プロジェクトを中心に専門家への意見聴取やニーズ調査を行い、9月を目途に効果的な施策の方向性を取りまとめる。

市民窓口のデジタル化は

問 利用者の利便性向上などへの対策のため、早期にシステム導入する考えは。

答 2025年度のシステム標準化に合わせて、マイナンバーカードとの連携などを行うこととしている。それにより手書き部分のさらなる簡素化や証明書発行の自動化に加え、対応可能な手続き数が現在の8つから約200に拡充される見込みである。



羽田 俊介
水曜会
(60分)



協働のまちづくりは

問 ①県管理河川の環境美化作業において、除草・清掃作業などで出たごみは県が回収、処分対応をしていたが、昨年、一方的に、以後対応できない旨の通告があった。本市の今後の対応は。

②本市の地域防災という重責を担っている排水機場等の操作員について、待遇改善などの考えは。

答 ①一部の団体から負担増加に対する不安や対象経費に対する不満の声が本市にも届いていることから、地域団体などによる美化活動が今後も継続できるように改めて県に申し入れる考えである。

②近年、豪雨の頻発化や激甚化により、操作員の出勤回数や作業時間などが増加していることから、今後、実態に応じた委託契約となるよう検討を進めている。こうした待遇の改善や新たな技術の活用を検討するなど、持続可能な管理体制を維持していく。



河手川一斉清掃の様子